

検討委員会意見のまとめ

論点整理

▶ 1. 学校規模のあり方の検討における目的について

【委員意見】

- ・ 児童生徒の推移を見て、旧下毛地区は、転入が少ないと思うので、現実的に考えないといけなと感じた。
- ・ 今後の考え方として、財政の問題、校区の問題（選択制）を含めて検討していくのか。

財政や校区の問題もあるが、子どもたちの教育にとって何が1番良いのかという観点で、様々なご意見をいただきたい。

- ・ 授業と子どもの生活から見れば、ある程度の子どもたちの人数がいた方がいいと思う。

【論点整理】

- ・ 少子化に対応した学校規模のあり方の検討について
- ・ 財政問題の検討の必要性について

論点整理

▶ 2. 学校規模のあり方の検討の視点（考慮すべき事項）について

【委員意見】

- ・小学校によっては6年生まで児童クラブに行けるところもある。（子どもが）少ない地域だからこそそういうこともできると思う。
- ・統廃合が進んだ時にどこが児童クラブを運営するのかという協議をしていかなければならないと思う。
- ・地域の方々が、確かにここに学校があって、こんなことがあったと思い出せる何か（ピアノであったり校章であったり）を新しい学校に展示する等すれば地域の方々も納得して気持ちを前向きにできるのではないか。
- ・統合する場合に各学校それぞれあった学校の、それぞれの伝統行事を合わせてやるという考え方なのか。学校の伝統を引き継いでいきますよということを表に出していくのか。

【論点整理】

- ・新たな学校のあり方検討の視点
- ・教育二一ズ

論点整理

▶ 3. 目指したい教育環境について

【委員意見】

- ・ 規模の小さな学校には地域の方と交流する取り組みもあったり少人数だからできる学習もあるので一概に適正規模と小規模のどちらが絶対いいかというのは難しい。
- ・ 小規模の良さとして、児童生徒と先生の関係が、非常に濃密である。
- ・ 旧郡部の中学校の部活について、現状人数が少なく団体スポーツができない状況がある。子どもたちの選択肢が狭まることになってほしくない。
- ・ バスやタクシーで近隣の中学校の部活に通えるようにしてもらえるとありがたい。
- ・ 生徒10人で運動会をした際に、地域のお年寄りの方とかが一緒になって盛り上げてくれたりした。
- ・ 中学校で専門の教科と専門外の2教科を受け持っていた。教員も5人しかおらず子どもたちにとって十分な教育ができたのかと思う。

論点整理

▶ 4. 学校規模の考え方について

【委員意見】

- ・中津市は「小規模校」と複式学級を持つ「過小規模校」で区分しているという点が、今後の統廃合を考える上でわかりやすい。
- ・クラスの人数は国の基準と中津は同じ基準なのか。

全国的に基準があり、中津市は大分県の基準に則っている。小学校の1年生と2年生が1クラス30人（※大分県基準。国基準は35人。）、3年生から6年生が1クラス35人（国基準）。中学校は、1年生が30人（※大分県基準。国は40人）、2年生、3年生は1クラス40人（国基準）。

- ・複式の人数の基準は。

国は2クラス合わせて16人以下が基準となっているが、大分県では14人以下となっている。複式学級の人数が10人以上であれば学習補助員を配置している。

論点整理

▶ 4. 学校規模の考え方について

【委員意見】

・複式学級で2学年が、学年が上がってもずっと同じ組み合わせで動いてしまうので違う下の学年と組み合わせるとかはできないのか。

児童の人数によってはそうなるが、学校長が判断したときに、全体としての学級数は変わらず、その組み合わせを変える場合はある。その時は「学級編成の届出」を教育委員会に提出し、それを県に提出して承認してもらうという流れになる。

・1年生は複式にしないという原則があるのか。

大分県の基準では1年生は複式を解消することとしているので、1年生は何人であっても単式学級となる。

論点整理

▶ 5. 学校規模のあり方の検討の方法について①

▶ 6. 学校規模に応じた検討の視点について①

【委員意見】

- ・小1プロブレムや中1ギャップをあまり生じさせないようにしたいと思うし、小中一貫校の方が子どもたちがスムーズに勉強できるならそういう考え方も良いと思った。
- ・地域単位の小中一貫校の検討というのがいいのではないか。
- ・耶馬溪地域だけだと思っていたので地域単位の小中一貫校が望ましいと思ったが、他の地域を含むとなると他の方法もあるのかなとも思った。
- ・統合をどのように考えていくのか。どの学校とどの学校が統合するのか。
- ・「学校のあり方の検討の方法」のところで、小規模校のデメリットを最小化し、メリットを最大化する方策と書かれているが、例えばどういうことなのか。

○デメリットを最小化：小中一貫教育の導入により、一定の集団規模を確保する、ICTを活用し他校との合同授業を行う等

○メリットを最大化：児童・生徒会活動や各種の班活動等を通じて、意図的にすべての児童生徒にすべての役職を経験させる、教育活動全体を通じて、校外学習も含めた様々な体験の機会を積極的に取り入れる等

「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き
(文部科学省H27.1.27)」(以下、「手引き」) P.35~36より引用

論点整理

▶ 5. 学校規模のあり方の検討の方法について②

▶ 6. 学校規模に応じた検討の視点について②

【委員意見】

- ・ 過小規模校は存続も含め検討するのか。
- ・ 小規模特認校で実際に校区外から通っている子供がいるのか。どうやって通学しているのか。

中津市においては深水小学校が小規模特認校であり、校区外から通っている児童がいる。保護者の送迎により通学している。

- ・ 規模の大きな学校に行きたかったのに行けなかったという人がいたが、それは出来ないのか。

基本的には、居住区域の学校しか行けないこととなっている。そのうえで、区域外通学については、区域外通学の要件に合った場合に教育委員会が認めるということなる。要件に合うかどうかは、事情を聞かせていただいた上で個別に判断している。

【論点整理】

- ・ 統合、小中一貫校、義務教育学校を検討することについて
- ・ 地域を超えた統合について
- ・ 過小規模校の存続について
- ・ 校区選択制の必要性について

論点整理

▶ 7. 学校再編のプロセス（案）について①

【委員意見】

- ・ 保護者については思いが熱く、色々な意見がある。今後会議を進めていく中で、担っているものが大きく、頭が重たくなっているのが現状である。
- ・ 「学校再編のプロセス(案)」の1番目のプロセス「教育委員会の方針の説明」というところだが、教育委員会の方針というのはこの検討委員会で議論されて全体的に方針が出ると思うが、それが教育委員会の方針ということでもいいのか。

この検討委員会は、過小規模校に通う地域子どもたちの将来にとってより良い学校のあり方について、広く意見を出していただくというのを目的にしている。そして、いただいた意見をもとに、教育委員会が協議を行い、教育委員会の責任において方針を決定する。

論点整理

▶ 7. 学校再編のプロセス（案）について②

【委員意見】

・ 「学校再編のプロセス(案)」の2番目のプロセス「コミュニティスクール等での話し合い」について、教育委員会の方針を各学校単位に示した後、学校単位での話し合いになると思うが、どのような形態を考えているのか。学校運営協議会(※コミュニティスクールのこと)だけでは足りない気がする。具体的にどのような形態で、住民がどのように参加するのか。

例えば公民館等で地域の方々に説明会を実施する。それを受けて、学校運営協議会や、校区の自治委員会、公民館の運営協議会等それぞれ地域組織があるので、それぞれの中で、教育委員会が示す今後の児童生徒数の推計や方針について議論していただく。要望があれば教育委員会がそこに出向く。そのあとは検討会議のようなものを設置していただければいいと考えている。

論点整理

▶ 7. 学校再編のプロセス（案）について③

【委員意見】

- ・ 学校を統合する際に地元の学校に対するとても強い思いを持っている方々がいるので、卒業生や地域の人たちのご意見もしっかり聞いていかないと後々噛み合わなくなるところも出てくる。
- ・ 「学校再編のプロセス(案)」の2番目のプロセス「コミュニティスクール等での話し合い」について、学校運営協議会での話し合いが、非常に難しいし、重要だし、学校の職員としてどういう考えを持てばいいのか。反対意見が出た時に、どのように決まっていくのか。

学校運営協議会等の場で、地域の方々が反対という意見があれば、教育委員会としては理解をいただけるよう丁寧に説明をしていくというような形になるかと思う。

地域の方の反対があるのに、教育委員会が進めるということは今のところ考えていない。地域で検討会議なりを設置して、大方の合意形成が出来た段階で要望書を提出してもらうことを想定している。色々な意見を出していただいて、協議が前向きに進んでいくことを望んでいる。

論点整理

▶ 7. 学校再編のプロセス（案）について④

【委員意見】

- ・ 統廃合ということについての保護者意見を集約したことがあるのか。
- ・ これまでいくつか統合した学校があったと思うが、再編後の意見として、子どもやその保護者がどうだったのかとかいうような意見、具体的なデータの集約はされているか。
- ・ 再編後に行った子どもたちの感想というのはどうなのか知っているか。
- ・ 保護者や地域の方だけでなく、学校の主人公である児童生徒の意見を聞くことが大事。
- ・ 学校再編成前後の検証は、絶対に必要なので事前に計画しておくべき。
- ・ 再編の実施までのスケジュール感というか、どのぐらいの期間をかけて最終的にたどり着きたいと考えているのか。
- ・ 保護者の方々は、自分の子どもが卒業するまでにどういう形になるのか、或いは自分の子どもが入学するときどういう形になってるのかというのが一番の関心事ではないかと思うので、再編に向けて協議を進める際に、最終的な再編の実施までのスケジュールを示した方がいい。

論点整理

▶ 7. 学校再編のプロセス（案）について⑤

【委員意見】

- ・ どの町も、（統合等について）同時進行で話を進めていくのか。
- ・ 校舎を新築したり、増築したり、改築したりということは、地域住民の方もイメージしやすいが、教育課程の編成などは一般の方は馴染みがないので、理解していただくためには広報も工夫が必要だと思う。
- ・ 今から15年ほど前の耶馬溪地域の学校統廃合の検討の中で、統廃合に至らなかった理由というか、それはどういう経過だったのか。何が駄目で反対が多かったのか。

地区ごとに公民館等で説明会を開催し、児童生徒数の推計や小中一貫校の特徴を示し、そして、先進地視察など実施したが、当時は現在より子どもたちの人数も多く、教育委員会の方針は総意として受け入れられなかった。

【論点整理】

- ・ 学校再編成に関する地域や保護者の合意の必要性
- ・ 学校再編成前、学校再編後の検証（教育環境、意識等）の必要性
- ・ 学校再編から実施までのスケジュール
- ・ 保護者や地域住民がわかりやすい説明・広報

論点整理

▶ 8. 通学路・通学支援・跡地活用・フォロー①について

【委員意見】

- ・スクールバスの関係や統合後の通学距離とかも親の負担等を考え、今後、話し合っていければと思う。
- ・統合となると現状より朝のスクールバスの時間が早まる可能性があるので保護者にとっても子どもにとっても負担軽減とはならないと思う。
- ・スクールバスはあったほうが良いと思うが、子どもの健康面や体力面、保護者の負担も含めて考えた方がよい。また身体の不自由な子どもが乗ることもあるのでそういった部分が充実したスクールバスにならないといけないと思う。
- ・現状の通学支援について小学校は4km、中学校は6kmというのは、今の小中学生が歩いて行くのは不可能だと思うし、もう少し柔軟に考えてほしい。
- ・コミュニティバスやスクールバスの時間帯で授業の時間割を変えたりしている現状があるので再編の際にはそういったところを手厚くしてほしい。
- ・この地区だから一律に全員歩きで登下校というのはおかしいと思う。
- ・現状山国地域ではデマンドバスが走っていて、デマンドバスだと確実に乗車する人がいて便利だが、それを利用することで歩くことがない子もいる。
- ・保護者の立場からすると通学が1番大変なので通学はバスに乗れば大丈夫ですよというのをアピールできればいいと思う。

【論点整理】

- ・通学路の手段の確保
- ・通学による児童生徒や保護者の負担軽減

論点整理

▶ 8. 通学路・通学支援・跡地活用・フォロー②について

【委員意見】

- ・学校は、コミュニティ、防災それぞれの拠点でもある。統廃合後の考え方に関する提示は可能か。
- ・市町村合併前に行われた山国の小学校統合後、地域がどう変わったのか、廃校の活用など山国の現状を今後事例として示していただきたい。
- ・学校跡地について、災害等があった場合に防災ヘリやドクターヘリ等が離着陸できる場所として活用してほしい。
- ・校舎の中でも特に体育館というのは地域にとっては貴重で重要な施設だと思う。
- ・防災の関係とか連携しないといけないのかなと思う。
- ・今現在いくつかの小学校が統合されて今廃校となっているが、その跡地の利用で特筆するような、今こういう活用してますよというのがあれば教えていただきたい。
- ・跡地活用は、利用の計画を今から立てるようなことを書いてあるが、これは教育委員会がするのか。

跡地活用については、地元の意向を第一に考える。地元活用がなければ民間事業者等への貸与など検討することになる。

【論点整理】

- ・跡地利用の考え方
- ・フォローについて